

資料1-(1) 讃美歌298番の生い立ちと歴史的背景

作成：岡本雅幸、2022-9-13

讃美歌	シベリウスの活動	第二の国歌	フィンランドの歴史
		先史時代 (12世紀まで)	フィン人の祖先が、現在ロシアのヴォルガ川周辺から移入 8～11世紀、北部はサーミ人、南部はフィン人の二民族。更に南部のフィン人は、スオミ（西南）、ハメーンリンナ（南部）とカレリア（東南）の三グループに分かれていた。のち「スオミ」がフィンランド語で「フィンランド」を指す言葉になった。
1752年 原歌詞(ドイツ語)誕生 ドイツ福音教会の修道女カタリーナ・シュレーゲルにより「Stille, mein Wille! dein Jesus hilft siegen」		スウェーデン時代 (12～19世紀)	12世紀キリスト教が広まり、北欧十字軍がスウェーデンからフィンランドへ侵攻。南部の3グループを制圧し、スウェーデンがフィンランドの実効支配者となった。
https://www.pjthe3.com/stille-mein-wille/			19世紀初期、ロシア帝国とスウェーデンの間にフィンランド戦争が勃発。スウェーデンが敗戦した結果、フィンランド全域がロシアの統治となった。当時のロシア皇帝は開明的君主であり、フィンランド内政をフィンランド人に任し、公用語にフィンランド語を許した。 大国スウェーデンとロシアに挟まれた小国フィンランドはアイデンティティ問題に直面。「我々はスウェーデン人には戻れない。しかしロシア人にもなれない。そうだ。フィンランド人で行こう」
1855年 英語訳歌詞 ジェーン・ローリー・ボースウィック(1813-1897)による	← 資料2 参照	ロシア時代 (19～20世紀)	1830年頃から、ロシアから様々な内政干渉を受け始める
	1899年 シベリウス 『フィンランディア』作曲 当初の曲名は「フィンランドは目覚める」(Suomi heraa)で、新聞社主催の歴史劇の伴奏音楽を8曲からなる管弦楽組曲とし、その最終曲を改稿して独立させたもの。		フィンランド大公国は帝政ロシアの圧政に苦しめられており、独立運動が起こっていた。 この曲は、フィンランドへの愛国心を沸き起こすとして、帝政ロシア政府により演奏禁止処分になる。

資料1-(2) 讃美歌298番の生い立ちと歴史的背景

作成：岡本雅幸、2022-9-13

讃美歌	シベリウスの活動	第二の国歌	フィンランドの歴史
			1917年ロシア革命が起こり、フィンランドは12月6日に独立を宣言した。
1932年、アメリカの長老派の賛美歌集THE HYMNAL. (1933)の編集委員会は、ボースウィックの詩に「フィンランディア」の旋律を賛美歌の旋律として採用するに当たり、その編曲を原作者自身に依頼。	当時67歳であったシベリウス自身も快諾して編曲		
			1939年8月23日、第二次世界大戦勃発後の独ソ不可侵条約で、独ソによる東欧の勢力圏分割が密約さる。
			1939年11月30日、スターリンが支配していたソ連が、フィンランドに侵略して冬戦争勃発
			危機的状況にフィンランドがあった時、このフィンランド賛歌は、国民の強い励ましとなる。
			1939年からの2度の戦いで、フィンランドは多くの犠牲を出しながらも、独立を守り抜く。第二次世界大戦と冷戦時代の東西両陣営の狭間で、長い国境を持つロシアとの関係を重視し、影響力を一定程度受け入れながらも中立政策をとる。
			2014年 ロシア、クリミア侵攻
			2017年 フィンランド独立100周年
			2022年3月 ロシア、ウクライナ侵攻
			2022年5月、スウェーデンとともにNATOへの加盟を正式に申請
1941年 フィンランディア賛歌が第二の国歌に ヴェイッコ・アンテロ・コスケンニエミ（1885年7月8日 - 1962年8月4日）がこの曲に歌詞を付加し、シベリウスが合唱用に編曲 https://www.worldfolksong.com/classical/sibelius/finlandia-hymn.html		独立後時代 (20～21世紀)	
1954年『讃美歌』出版			
讃美歌298番の訳者は笹淵友一（ささぶちともいち）氏	← 資料2参照		